2024年11月1日

各　位

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

2024年　10月度　売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	108.0
阪神梅田本店	106.7
支店計	100.3
全店計	105.1

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- 10月に入っても大阪では一部真夏日が継続し、また大半が夏日という高い気温の中、秋物ﾌｧｯｼｮﾝの動きが再び鈍化したが、免税売上が好調な阪急本店、博多阪急に加え、阪神梅田本店が牽引し、全店売上高合計は前年実績を上回った。
- 免税売上高は、国慶節の影響もあり前年に対して約4割増、阪急本店も約4割増と好調が継続、同月の売上高では17ヶ月連続で過去最高を更新。

○ 阪急本店の概況

- 3ヶ月連続で、同月の売上高において過去最高を更新。
- 前年に比べても気温があまり下がらず、秋物ﾌｧｯｼｮﾝ、特に重衣料やﾌﾞｰﾂの売上が伸び悩むも、ｱｸｾｻﾘｰ、ﾊﾞｯｸﾞ、ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙﾌｧｯｼｮﾝが牽引し、婦人ﾌｧｯｼｮﾝ全体では2ｹﾀ増と堅調な結果。ｱｸｾｻﾘｰではﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙﾆｰｽﾞが活況で、ﾊﾞｯｸﾞではﾌﾞﾗｳﾝ、ｶｰｷなどの秋ｶﾗｰや、ｷﾙﾃｨﾝｸﾞ、ﾌｧｰ素材に動きが見られた。ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙﾌｧｯｼｮﾝにおいても、衣料品に比べ服飾雑貨が好調に推移。また、化粧品や宝飾品の売上高も前年に対して約2割増と好調な伸びを示した。
- 9月末からの約2週間、人気催事「北海道物産大会」を開催。延べ約20種類がお楽しみいただけるｿﾌﾄｸﾘｰﾑをはじめ、9階の祝祭広場で展開したｽｲｰﾂ集積が集客に寄与し、幅広いお客様が連日ご来店。前年に続き、過去最高の期間売上高を更新。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2023年度						2024年度						
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
阪急本店	116.7	116.1	115.1	120.2	132.0	130.0	129.6	146.1	137.7	120.3	115.5	113.1	108.0
阪神梅田本店	104.4	150.0	111.9	117.6	119.1	107.0	105.8	108.8	109.2	105.3	109.5	81.5	106.7
支店計	110.8	112.0	108.5	110.0	115.5	111.4	110.4	112.0	116.7	107.5	105.3	105.1	100.3
全店計	113.2	118.0	112.3	116.0	124.5	119.9	119.9	129.1	127.1	114.1	111.1	105.8	105.1

■ 食品事業

イズミヤ・阪急オアシス	売上高前年比(%)
全店計	98.0

関西スーパーマーケット	売上高前年比(%)
全店計	96.8

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社　メディアリレーション部　TEL:06-6367-3181